

## 巨理町アンケート調査（H25. 6. 9 防災訓練時実施）

### 集計結果

平成 25 年 7 月 24 日

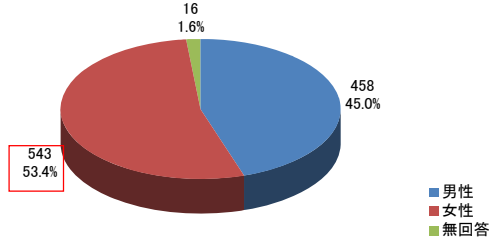


● 調査結果

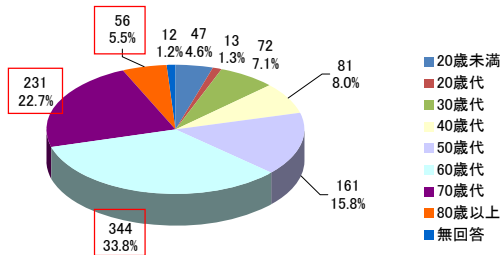
(1) 回答者の属性

- 参加者の半数以上が女性であった (53.4%)。
- 年齢別に見ると、60歳以上の参加者が多かった (62%)。
- 吉田地区の浜吉田北、北長瀬、荒浜地区の本郷、亶理地区の高屋において、参加者が多かった。

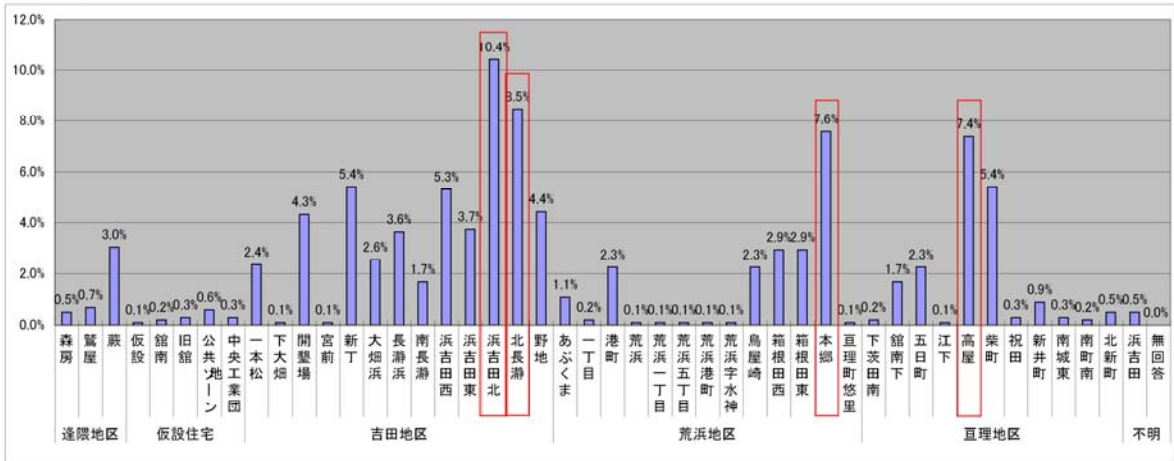
F1.性別



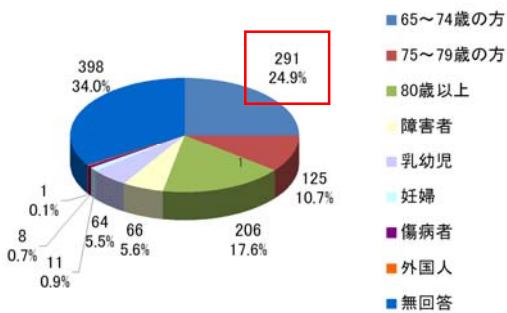
F2.年齢



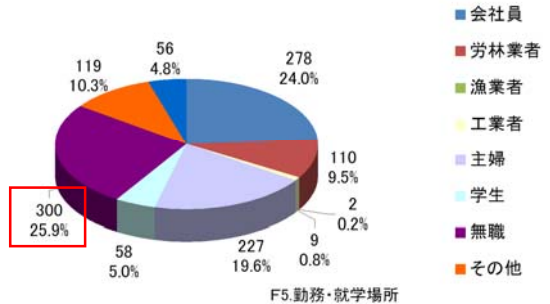
F3.住まいの行政区



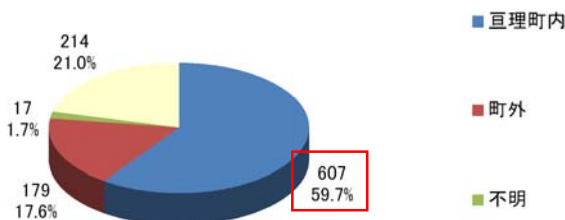
F4.家族構成



F5.職業



F5.勤務・就学場所

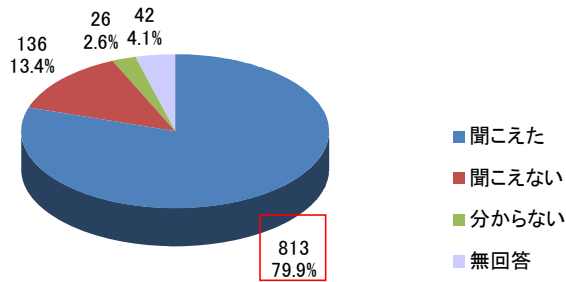


(2) 訓練について

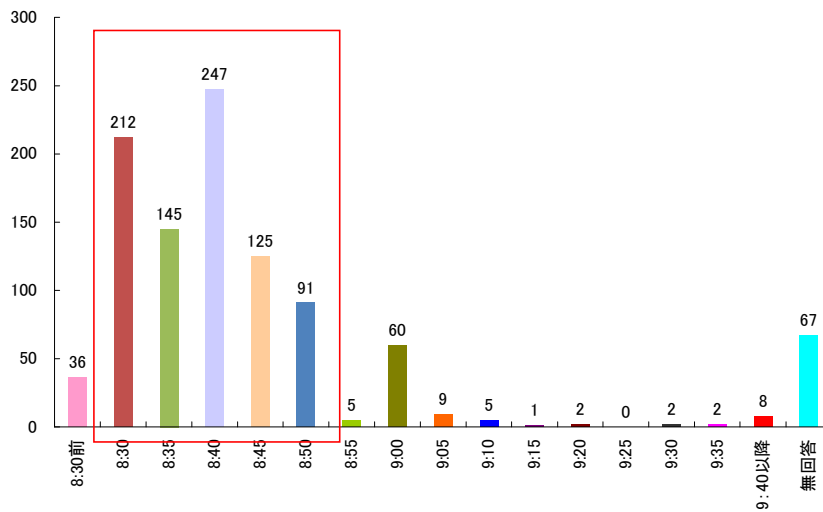
□ 問1～問2

- ・ 参加者の約 80%が、訓練開始のサイレンが聞こえたと回答している。
- ・ 8:30～8:50 の間に避難を開始した人が多かった。
- ・ 避難開始場所は、浜吉田北 (7.6%) が最も多く、次いで高屋 (5.8%) が多かった。

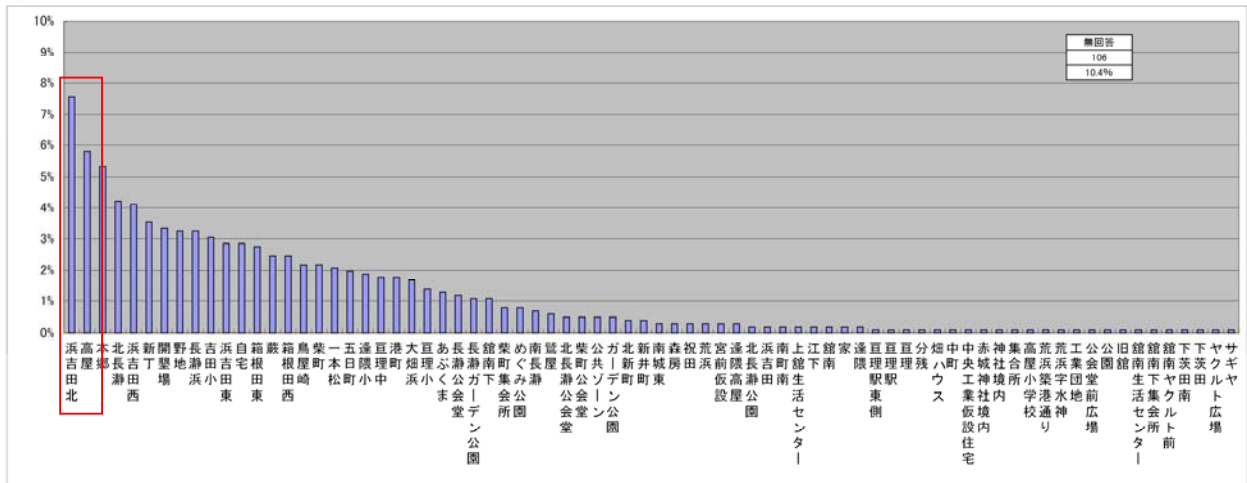
問1.訓練開始のサイレン



問2.避難開始時刻



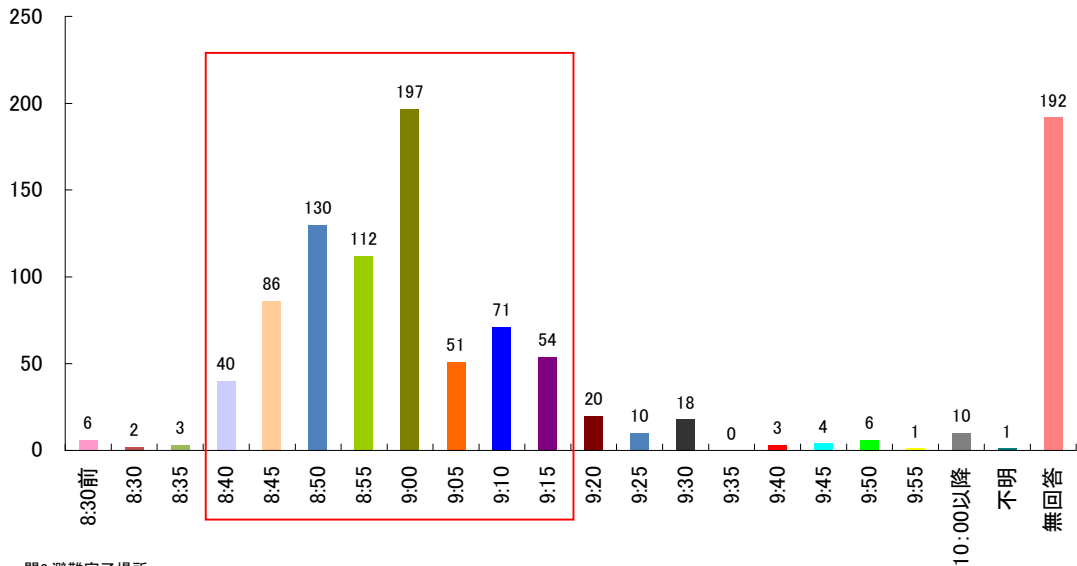
問2.避難開始場所



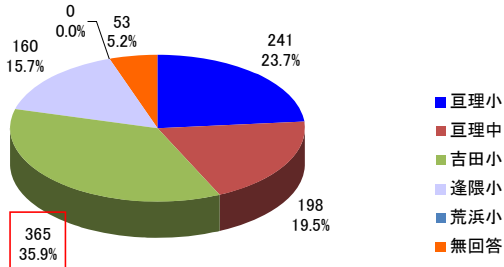
□ 問3～問4

- ・ 9:00 に避難を完了した人が多かった（197人）。
- ・ 避難を完了した場所は、吉田小学校（約36%）が最も多かった。
- ・ 訓練には2人で参加した人が最も多かった。

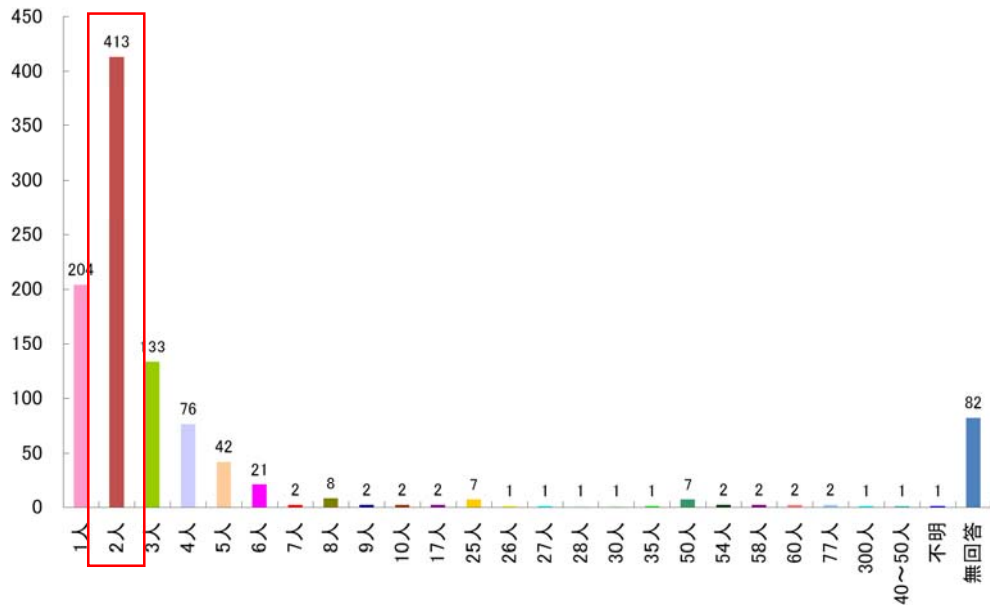
問3.避難完了時刻



問3.避難完了場所



問4.参加人数

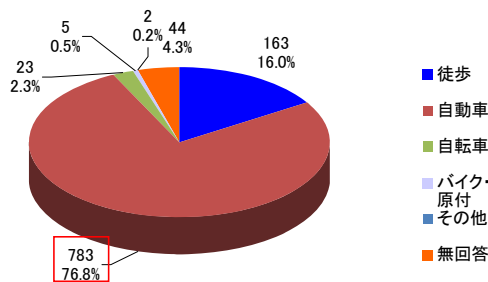




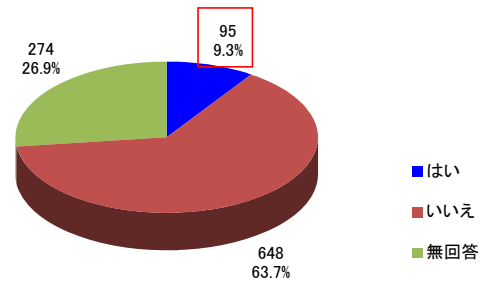
□ 問5～問6

- ・ 避難手段は、自動車が最も多かった。(76.8%)
- ・ 渋滞に巻き込まれたと回答した人は、9.3%であった。
- ・ 渋滞に遭遇した時刻は、8:50 が最も多かった。
- ・ 車を使う重要性については、「安全な場所まで遠く、車で避難しないと間に合わないから」という回答が最も多かった (約 30%)。
- ・ 自動車で避難した人は、2人で避難した人が最も多かった。

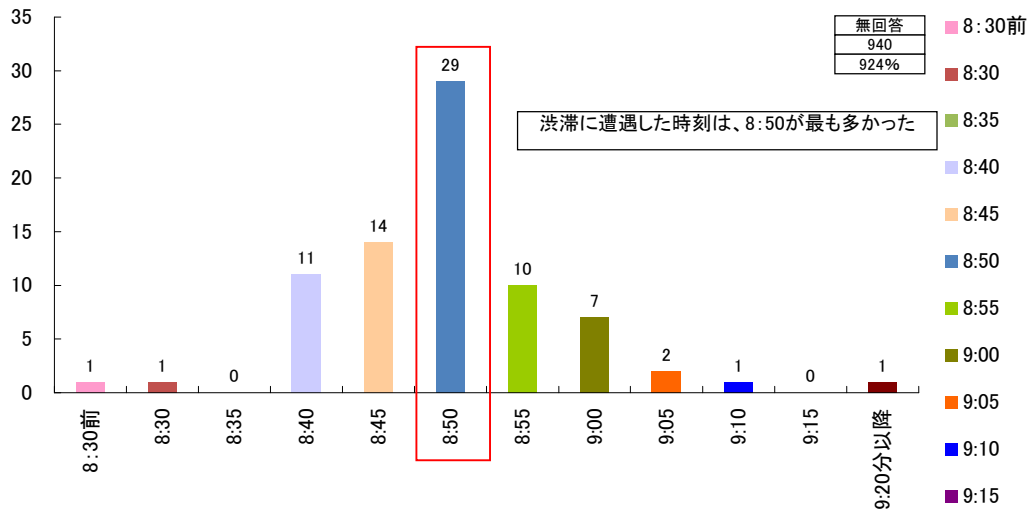
問5-避難手段



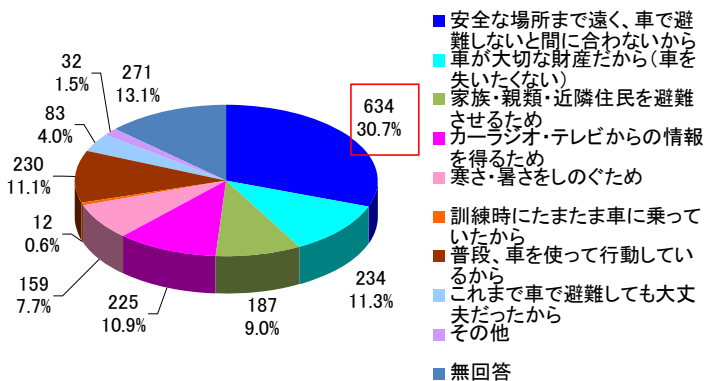
問5-1.渋滞に巻き込まれたか



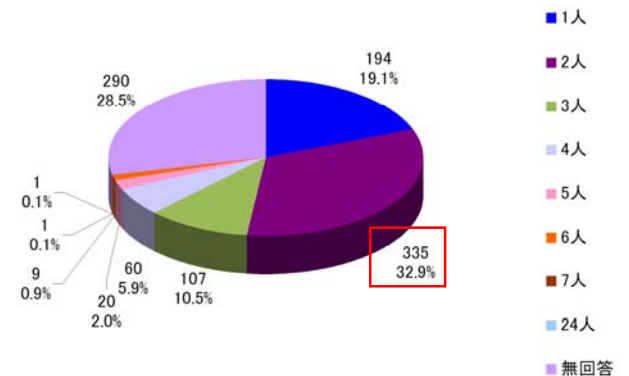
問5-1.渋滞に遭遇した時刻

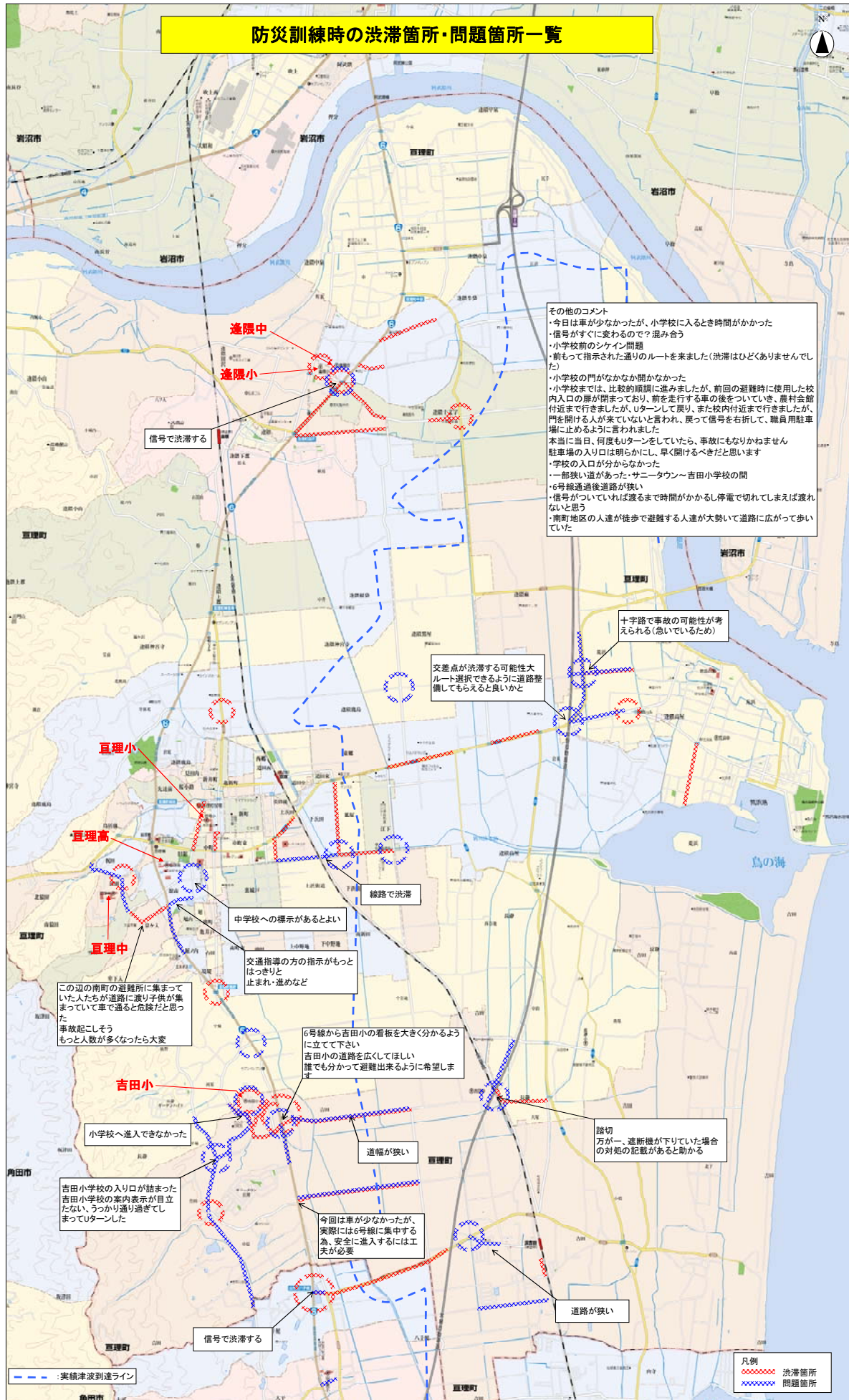


問5-2.車を使う重要性

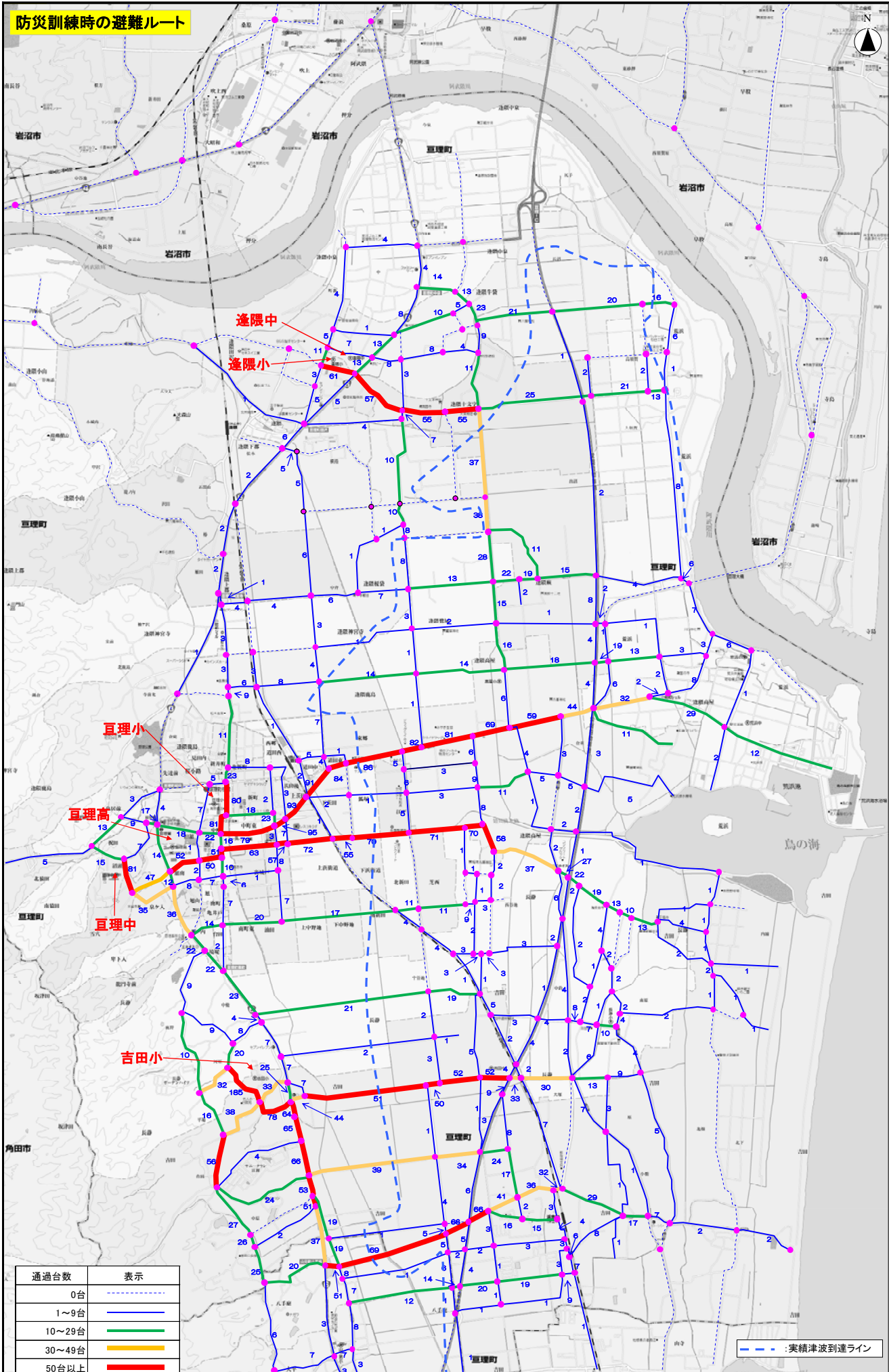


問5-3.同乗者人数







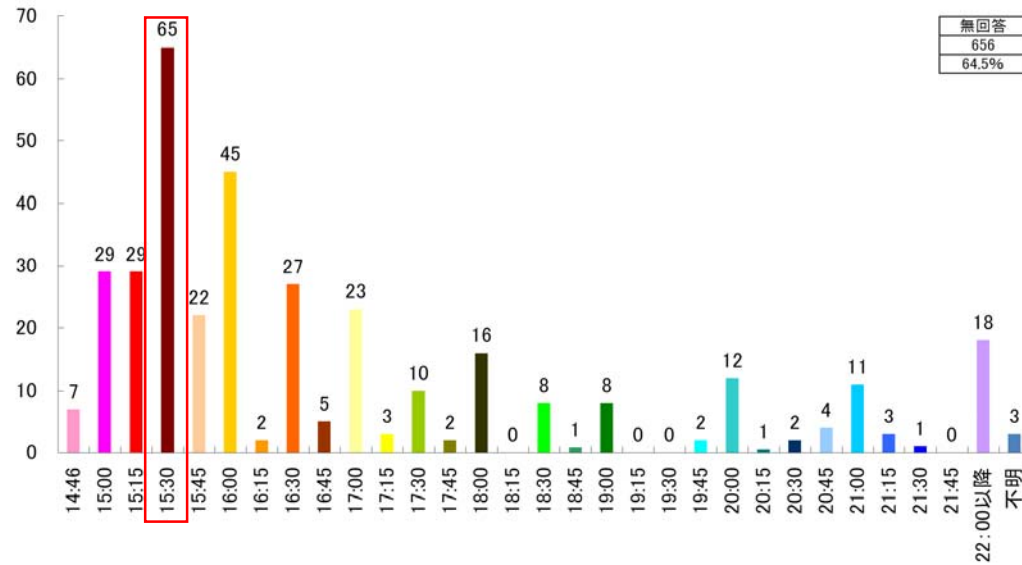




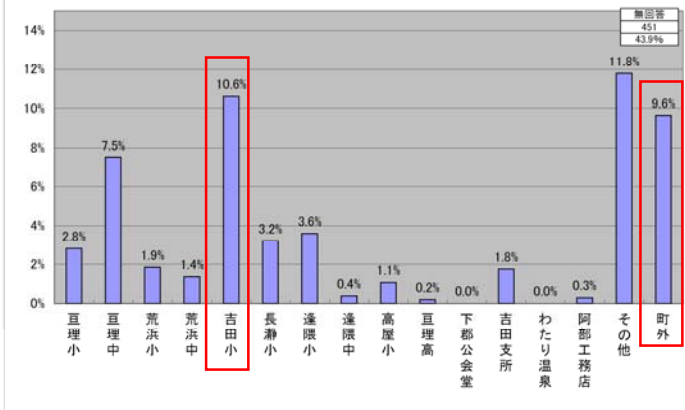
□ 問9～問11-1

- ・避難完了時刻は、15:30が最も多い（65人）。
- ・避難場所は、吉田小が最も多く、次いで亘理中が多かった。また、その他（11.8%）や町外（9.6%）へ避難した人も多数いた。
- ・2人で避難した人が最も多かった（13.7%）。
- ・避難手段は、車を利用した人が最も多かった（43.8%）。そのうち、14.4%の人が、渋滞に巻き込まれた。

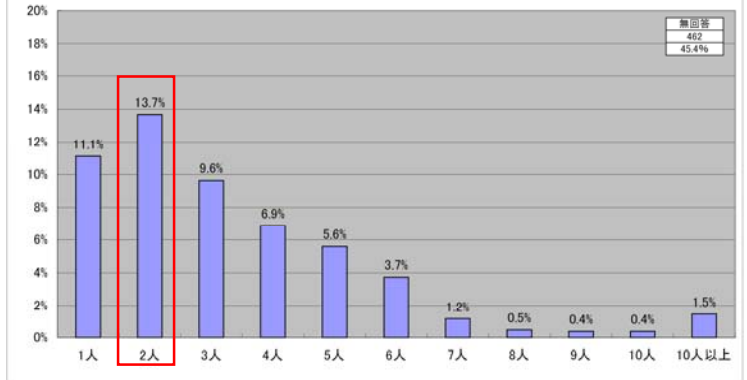
問9.東日本大震災当日の避難完了時刻



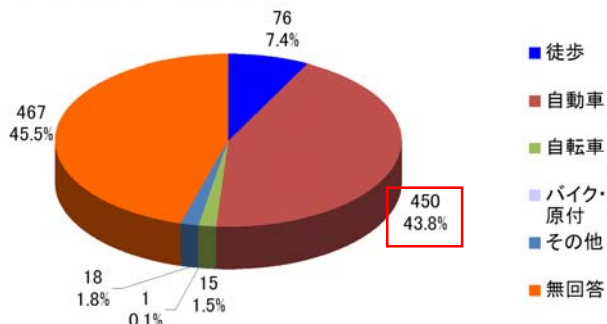
問9.東日本大震災当日の避難場所



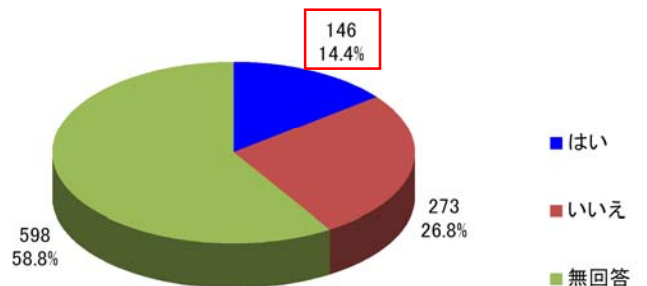
問10.東日本大震災当時の避難人数



問11.東日本大震災当日の避難手段



問11-1.東日本大震災当日渋滞に巻き込まれたか

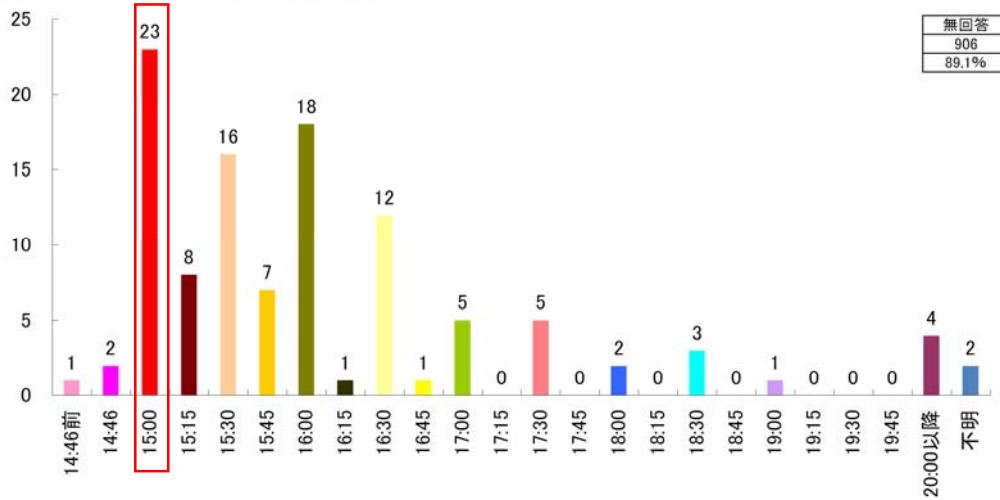




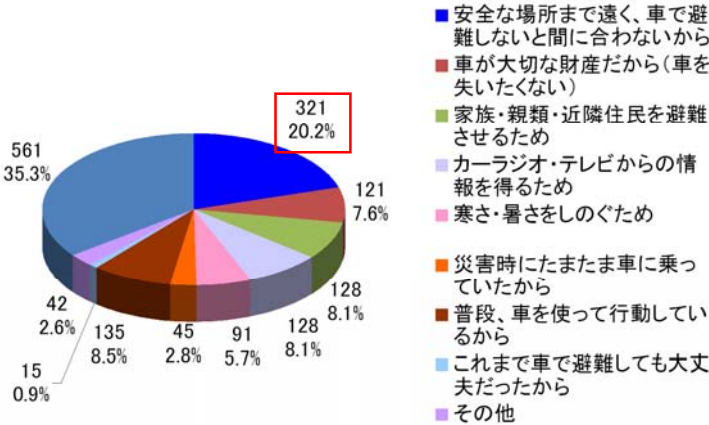
□ 問 11-1～問 12

- ・ 渋滞に遭遇した時刻は、15:00 が最も多かった（23人）。
- ・ 車で避難した理由は、「安全な場所まで遠く、車で避難したいと間に合わないから」と回答した人が最も多かった（20.2%）。
- ・ 車で避難した人は、1人（28.7%）もしくは2人（27.8%）で避難した人が多かった。
- ・ 「車で避難して良かった」と回答した人は、42.7%いた。

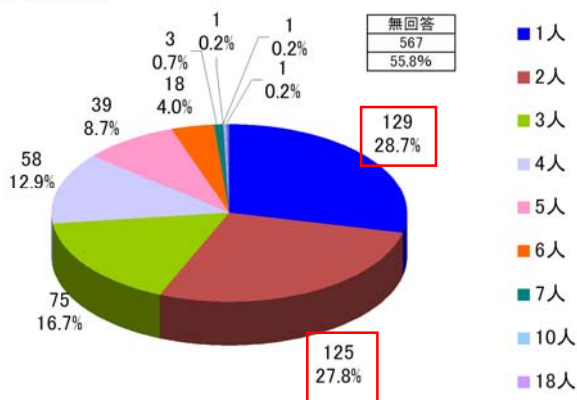
問11-1.東日本大震災当日渋滞に遭遇した時刻



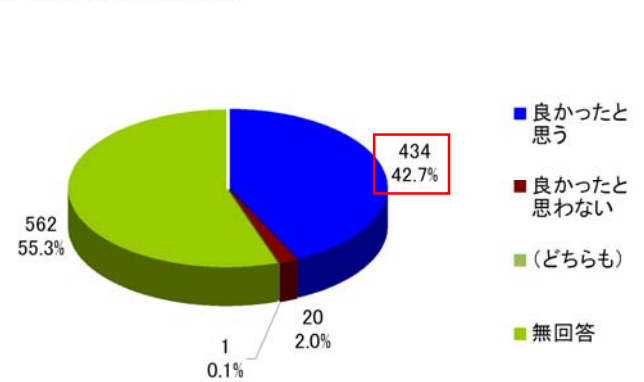
問11-2.東日本大震災当日車で避難した理由



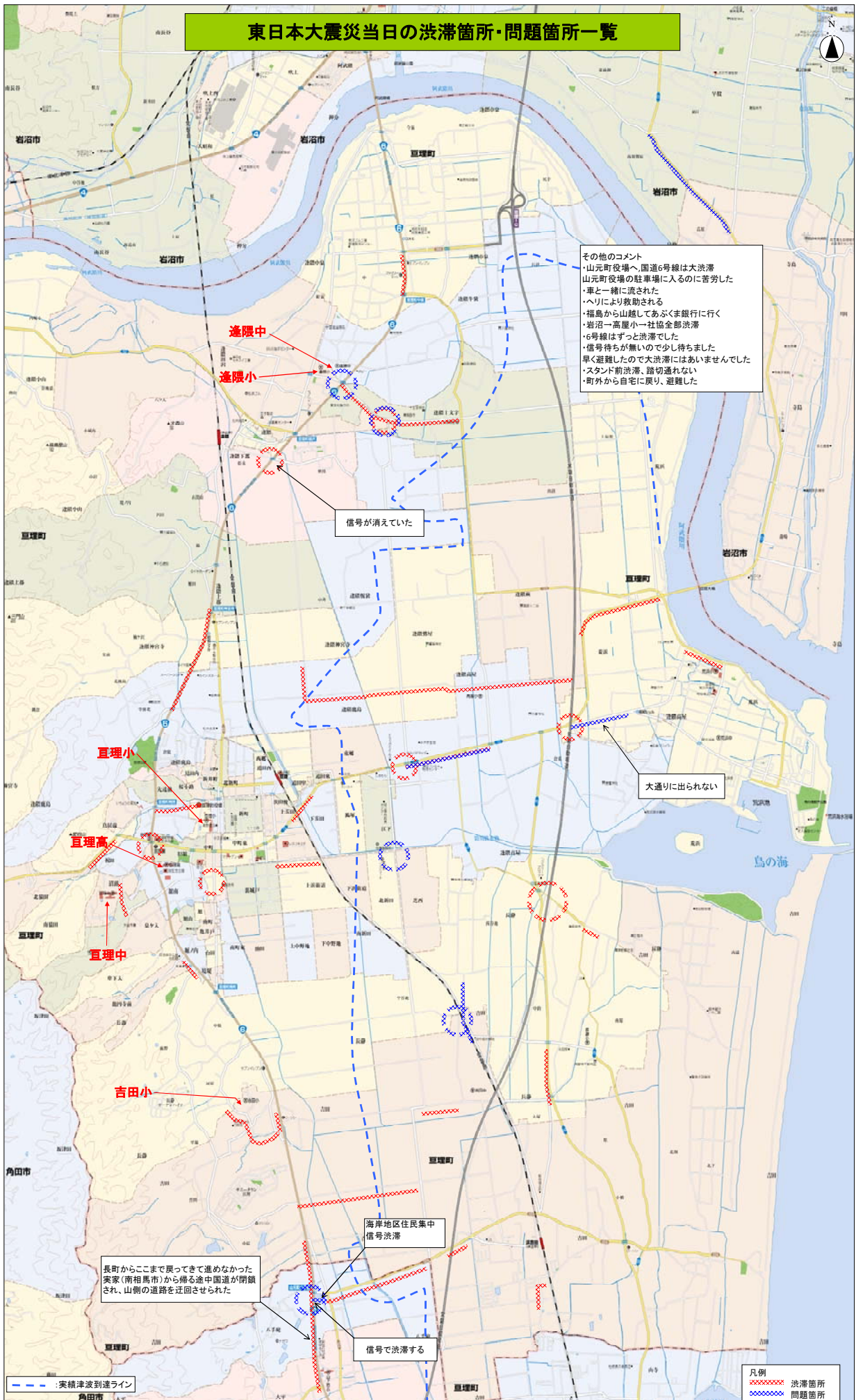
問11-3.同乗者人数

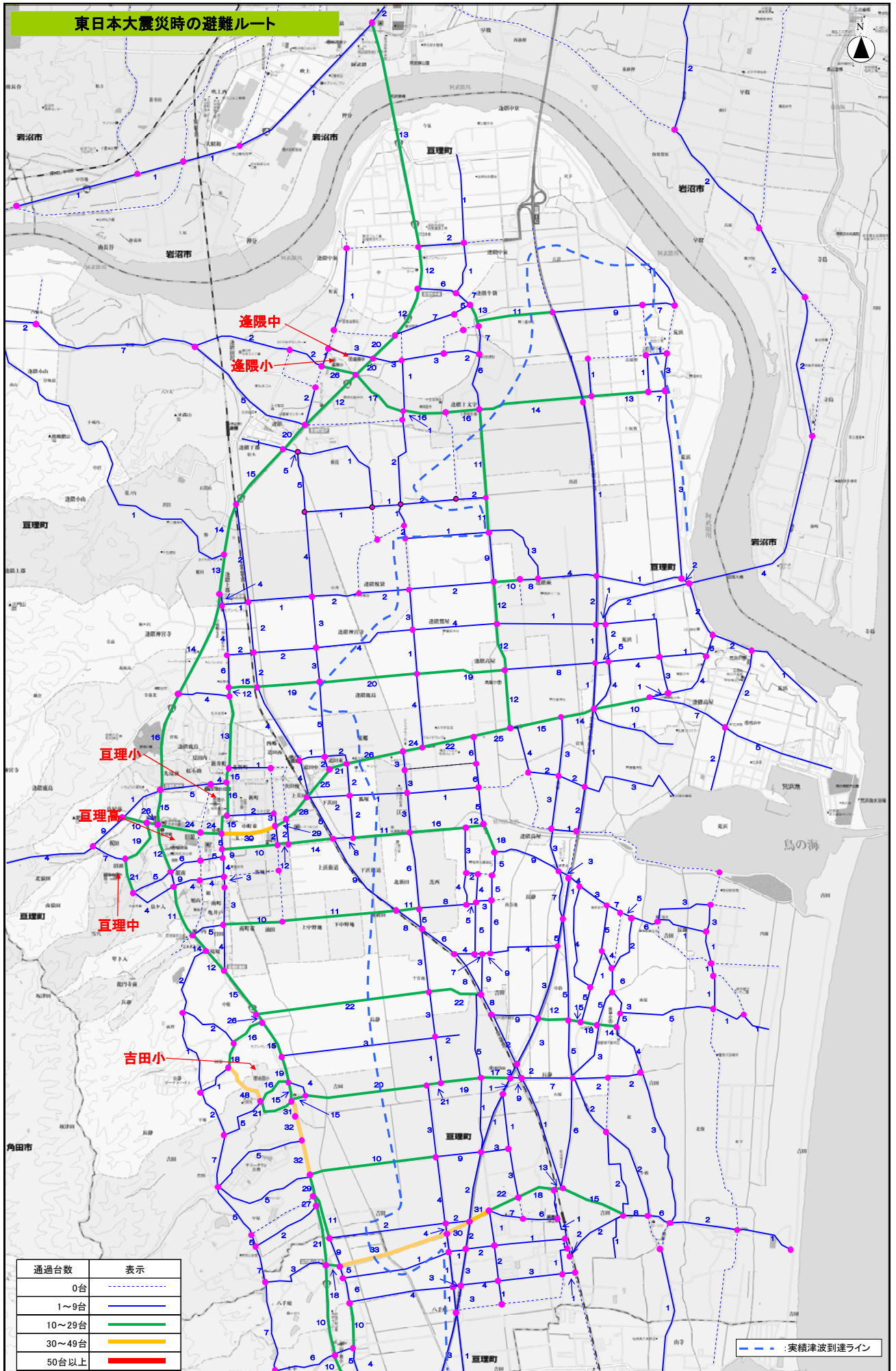


問11-4.車での避難でよかったか











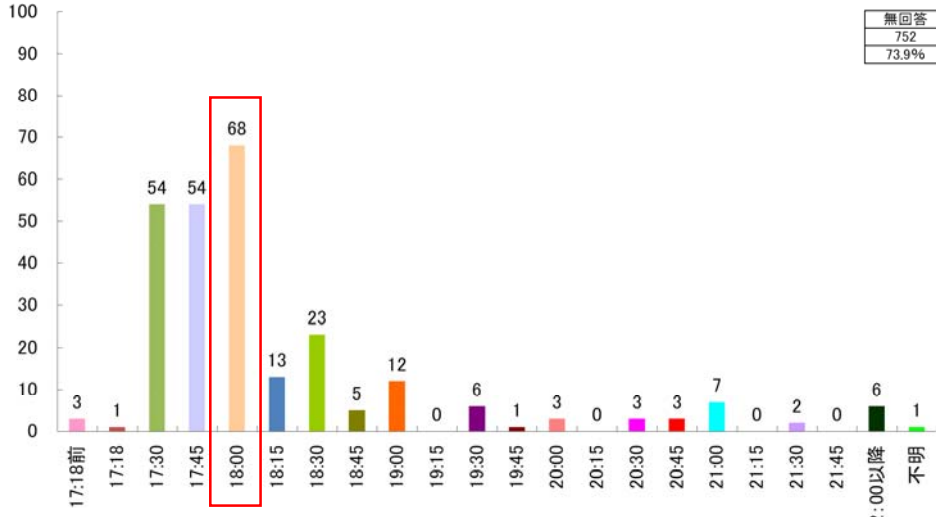




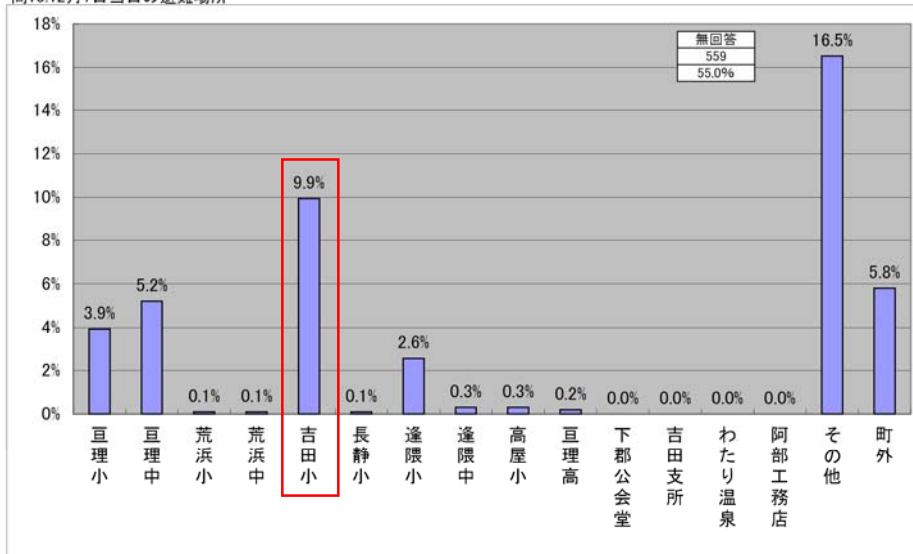
□ 問 15～問 17

- ・ 避難完了時刻は、18:00 が最も多い（68 人）。
- ・ 避難場所は、吉田小が多かった（9.9%）。また、その他（16.5%）や町外（5.8%）へ避難した人も多数いた。
- ・ 2 人で避難した人が最も多かった（34.9%）。
- ・ 避難手段は、車を利用した人が最も多かった（95.0%）。

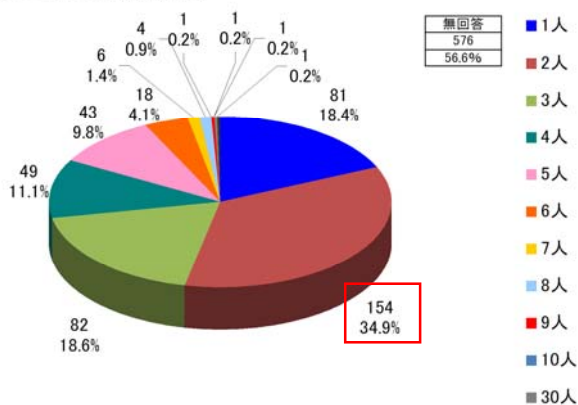
問15.12月7日当日の避難完了時刻



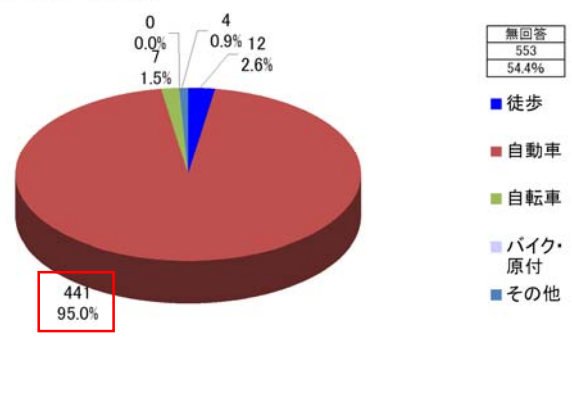
問15.12月7日当日の避難場所



問16.12月7日当日の避難人数



問17.12月7日当日の避難手段

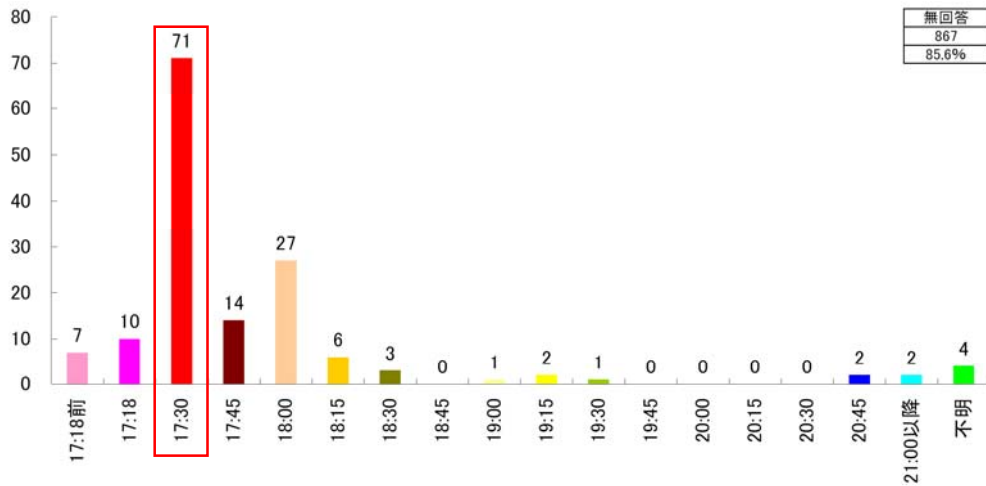




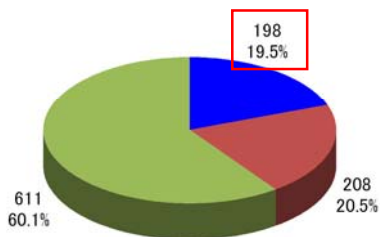
□問 17-1～問 17-4

- ・ 渋滞に遭遇した時刻は、17:30 が最も多かった（71人）。
- ・ 車避難した人のうち、19.5%の人が、渋滞に巻き込まれた。
- ・ 車で避難した理由は、「安全な場所まで遠く、車で避難したいと間に合わないから」と回答した人が最も多かった（23.7%）。
- ・ 1人（10.0%）もしくは2人（15.6%）で避難した人が多かった。
- ・ 「車で避難して良かった」と回答した人は、41.2%いた。

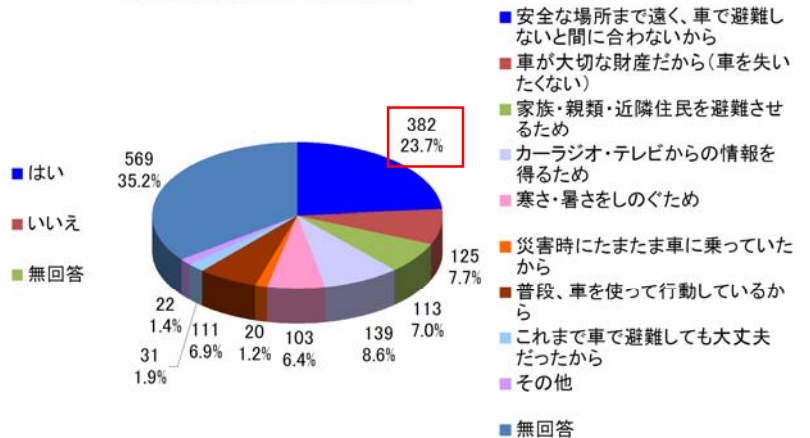
問17-1.12月7日当日避難中渋滞に遭遇した時刻



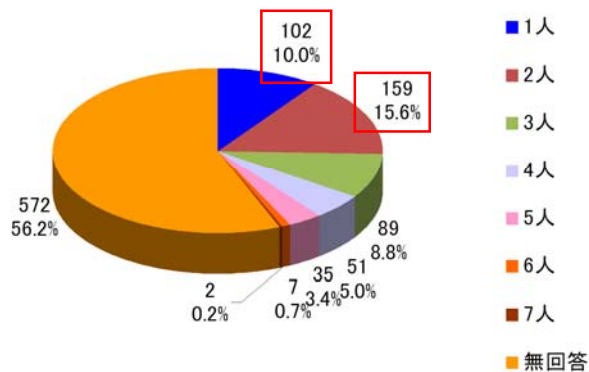
問17-1.12月7日当日避難中渋滞にまきこまれたか



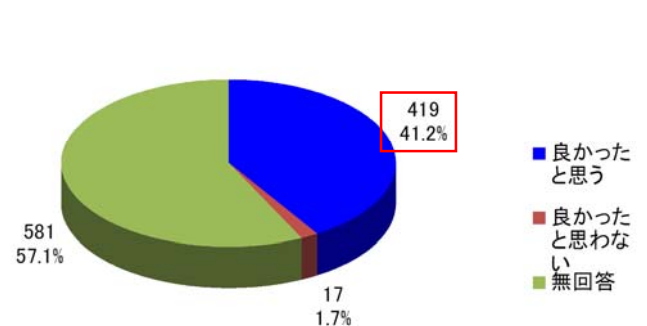
問17-2.12月7日当日車で避難した理由

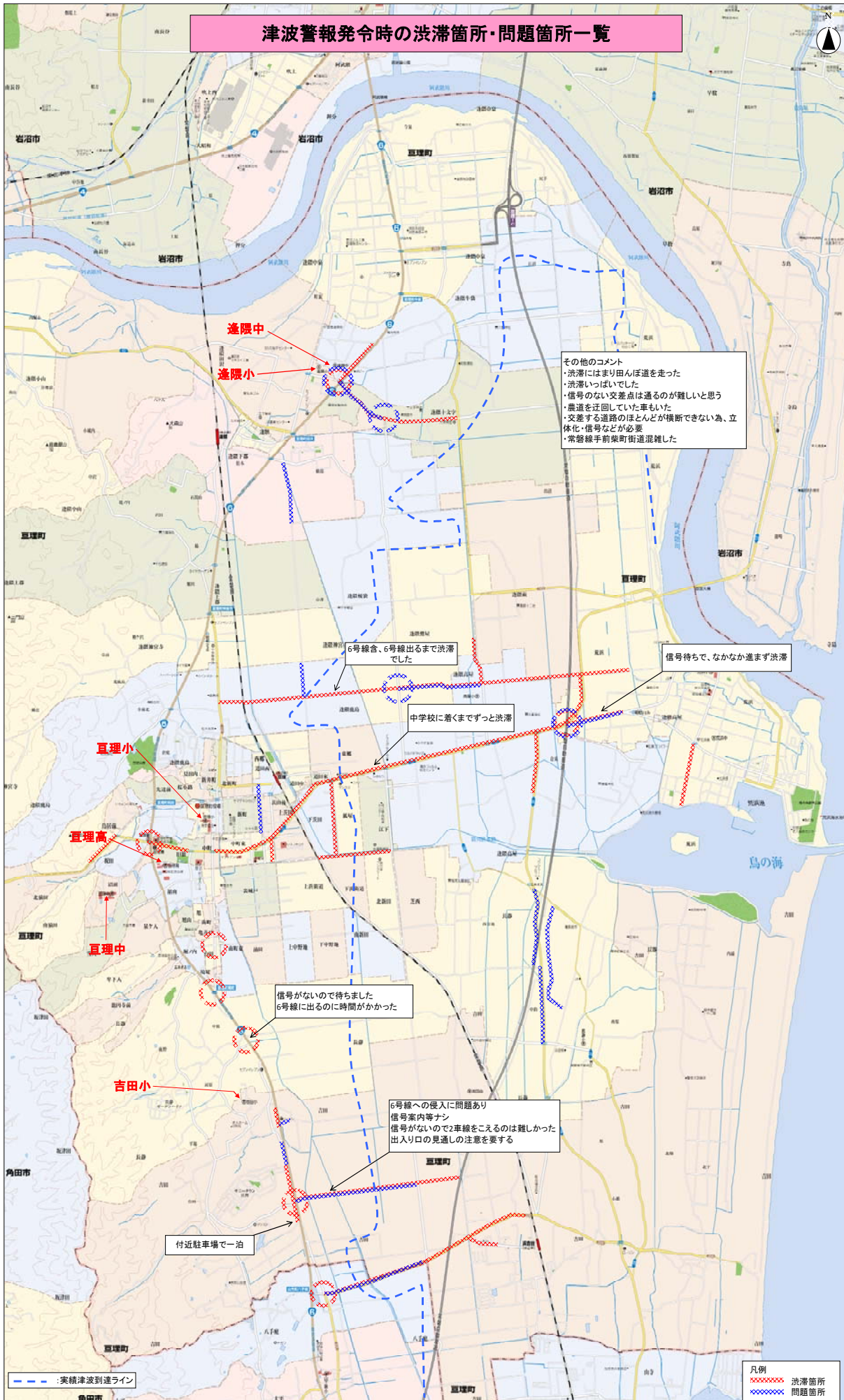


問17-3.12月7日当日の同乗者人数

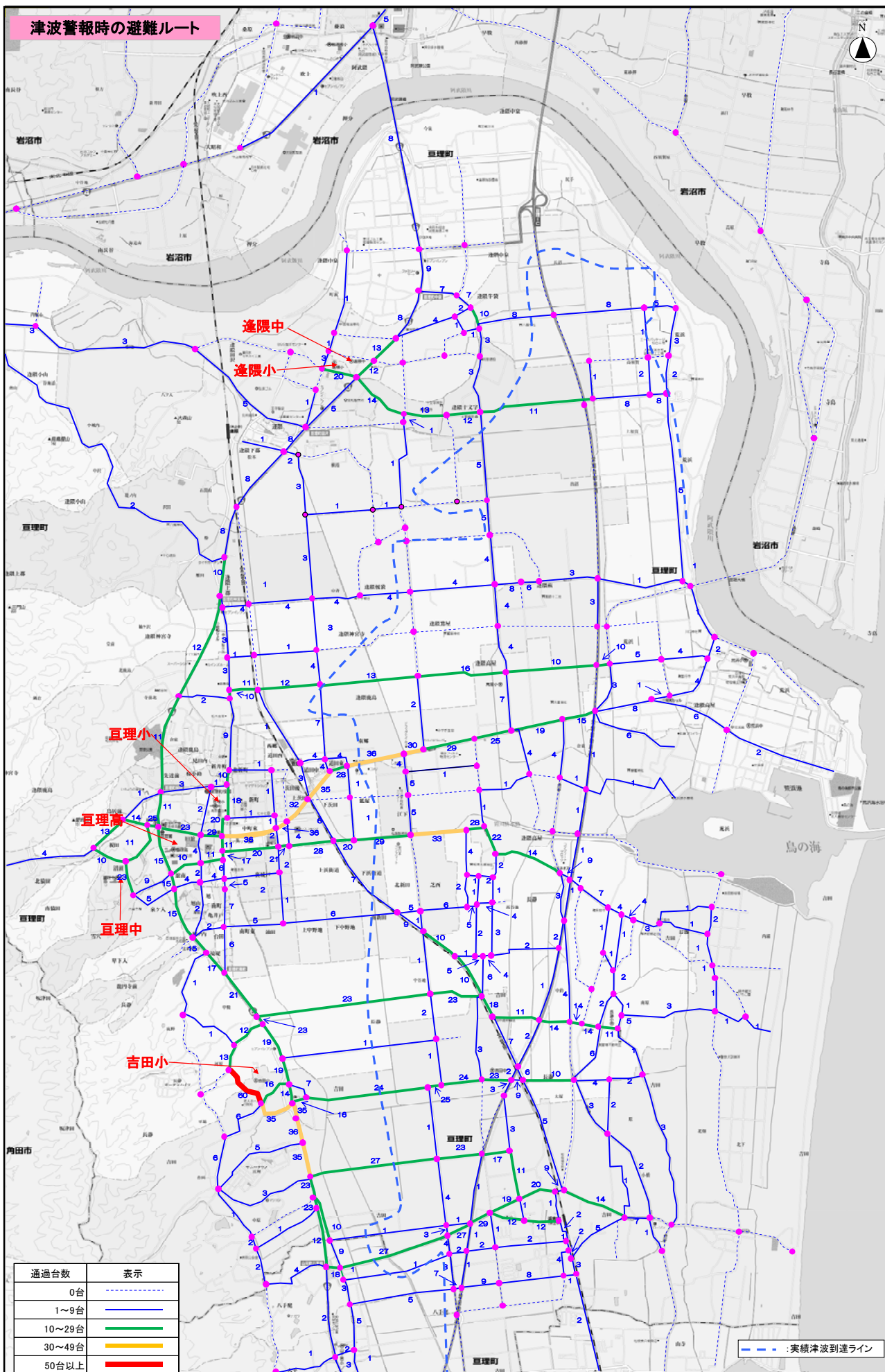


問17-4.12月7日当日車での避難でよかったか







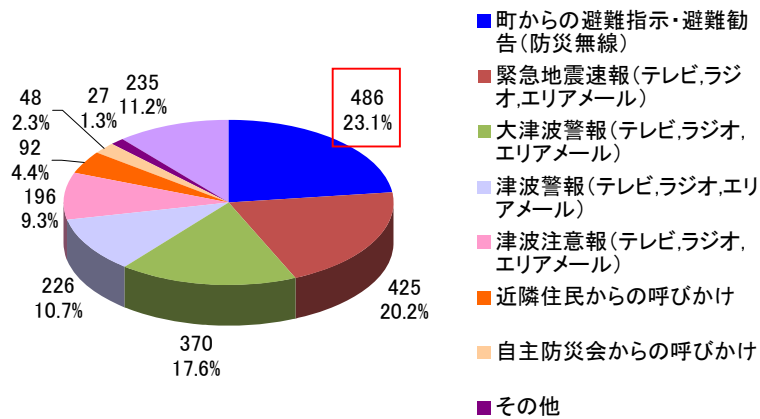


(5) 日ごろの考えや備えについて

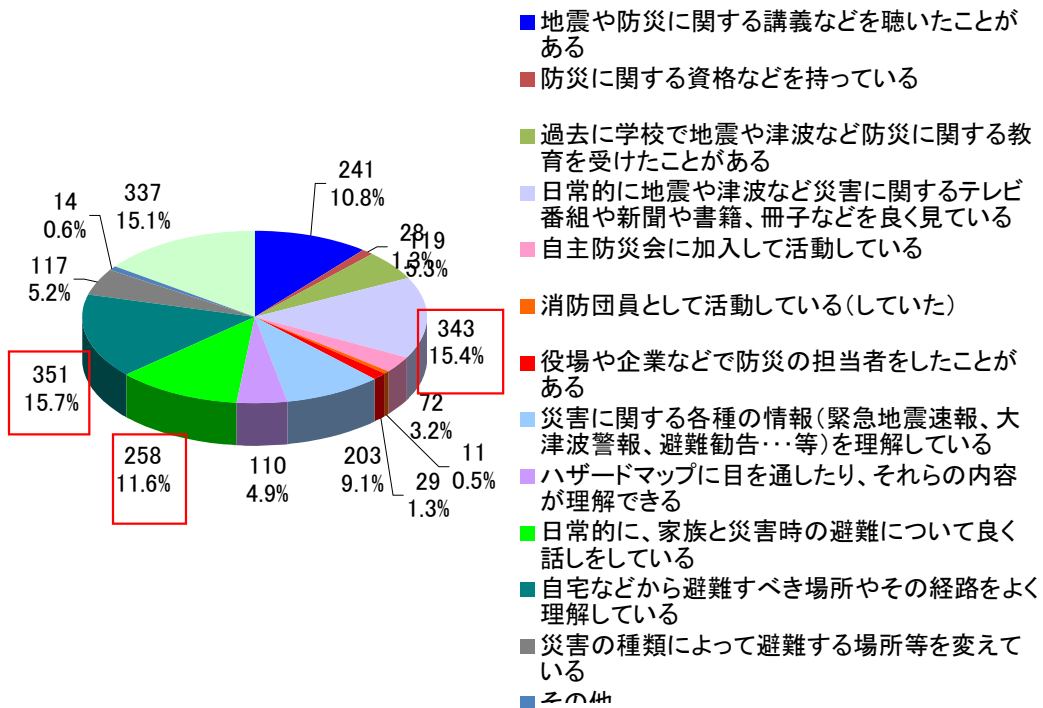
□問 19～問 20

- ・ 避難するきっかけについては、「町からの避難指示・避難勧告（防災無線）」（約 23%）、「緊急地震速報」（約 20%）との回答が多かった。
- ・ 日ごろの経験や行動については、「日常的に地震や津波など災害に関するテレビ番組や新聞や書籍、冊子などをよく見ている」（15.4%）、「日常的に、家族と災害時の避難について良く話しをしている」（11.6%）、「自宅などから避難すべき場所やその経路をよく理解している」（15.7%）と回答した人が多かった。

問19.地震発生後津波から避難するきっかけ



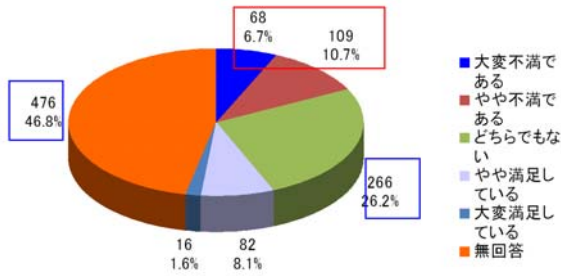
問20.日ごろの経験や行動



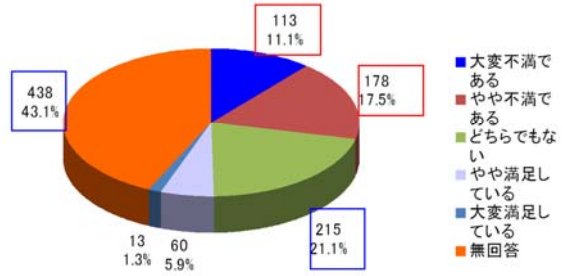
□問 21

- 町の災害対策・防災対策については、「大変不満である」、「やや不満である」との回答が占める割合が多い。また、「無回答」、「どちらでもない」の回答も多かった。

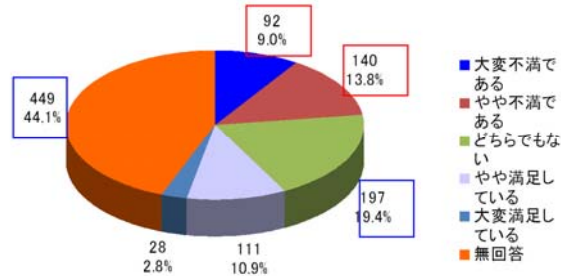
問21.① 備蓄状況



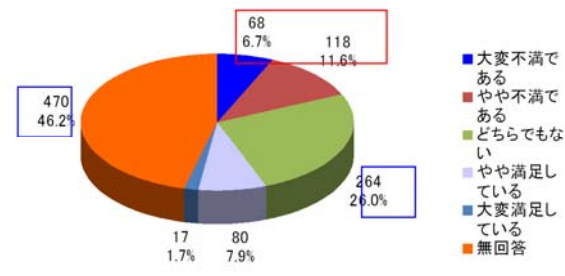
問21.② 交通渋滞対策



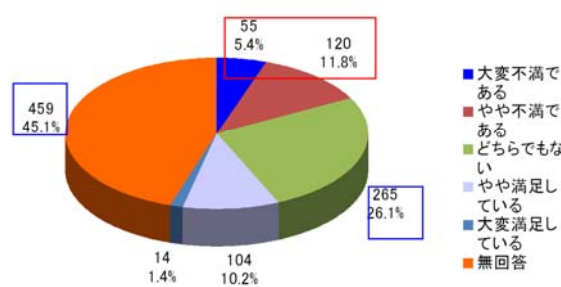
問21.③ 情報伝達手段の整備状況



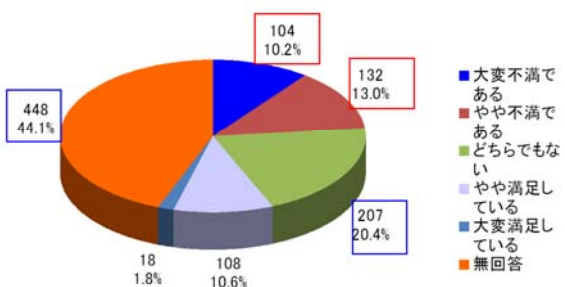
問21.④ 災害発生時のリスク情報(例:ハザードマップ)



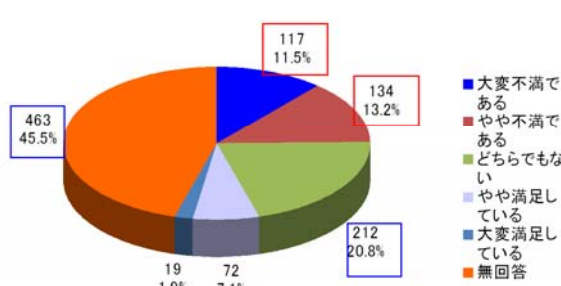
問21.⑤ 公共施設の耐震性



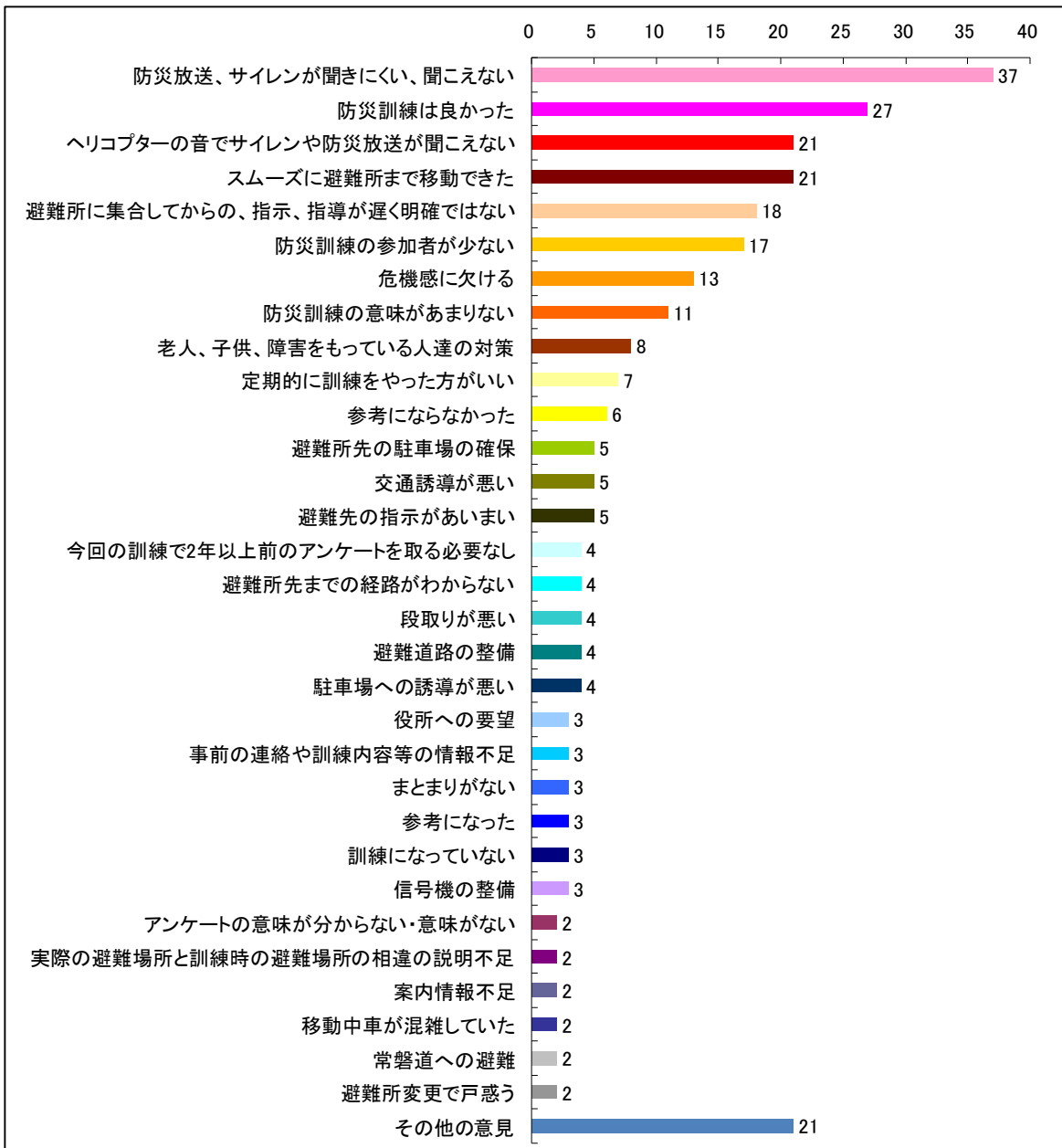
問21.⑥ 津波避難の施設や場所の配備状況



問21.⑦ 津波避難経路の整備状況



□問 22 防災訓練に対する意見（自由意見）の集計

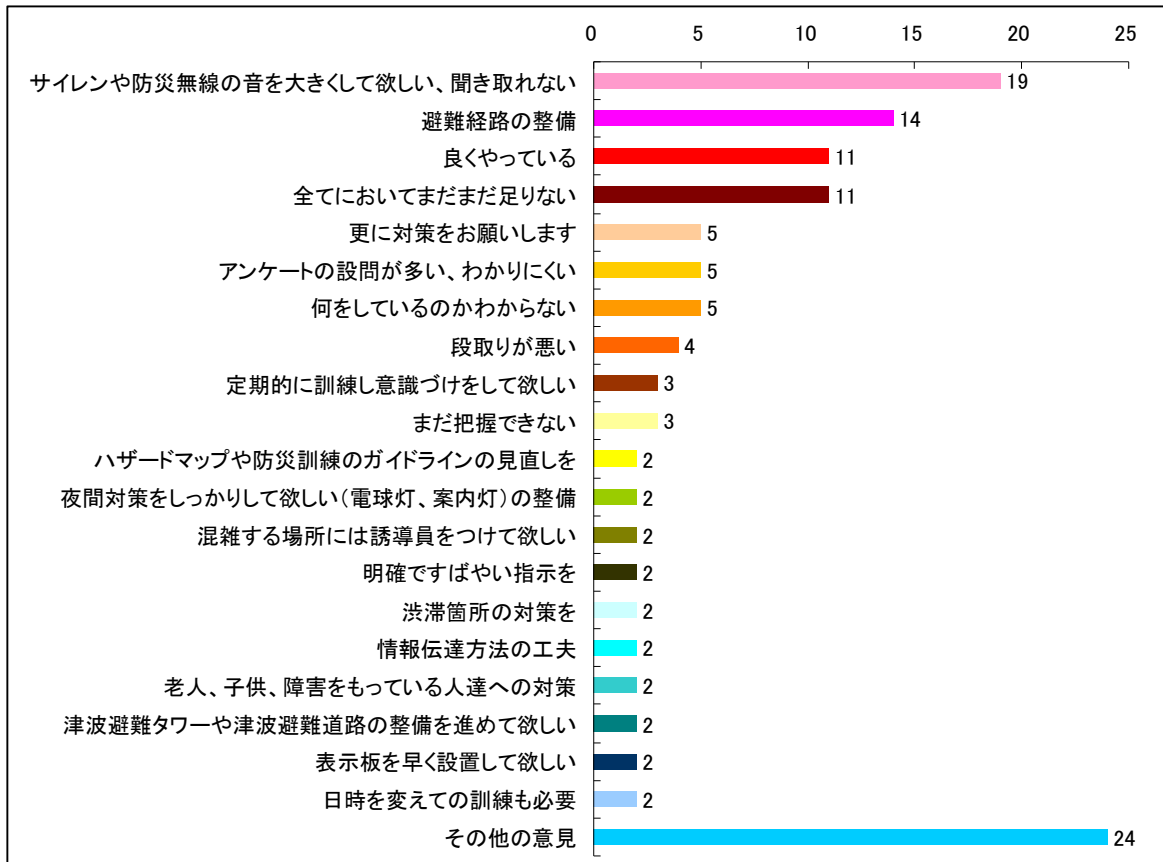


・その他の意見

動作が遅かった
浜地区と内陸地区とでは防災に対する考えが違う
エリアメールにして欲しい
車の誘導をした人がいたが、実際にはできないのでは
小さい子を連れてのアンケートは大変だった
なんとも言えない
訓練後の時間の短縮
国道6号上で集まれる場所の設置
避難場所周辺の警備の問題
不満
夜間訓練も必要
車の誘導がなかった
標識不足
車の誘導者不足
ベットの避難はどうすればいいのか
参加者の出席をとるべき
避難所に被災用品が何もない
プラカード番号ではわからない行政区名にして欲しい



□問 22 互理町の防災対策に関する意見（自由意見）の集計



・その他の意見

もっと具体的な避難資料の配布を
信号機と踏み切りの問題
実際の避難場所と訓練時の避難場所の違いが良くわからない
街作り協議会における自主防災会作りを早急に
避難場所の吉田小学校入口がわかりにくい
訓練を意識しすぎ
町民の意見を聞きながら改善しがらばって欲しい
職員をもっと多く配置して欲しい
近隣地域と連携した避難訓練も必要ではないか
6号線へ出る所に交通誘導がいてとても良かった
小学生の通学路に災害時用の避難シェルターの措置をのぞみます
津波が来る町だと再確認した
常磐道への避難訓練
荒浜から安全に車で脱出できるルートの確保
渋滞がなく良かった
小さい地震時には防災無線は不要では
危機感に欠ける
欲しい
行政区毎に避難場所を決めておく
海岸地区から山への移動は大変だ
震災時にはスピーカーの車で知らせたい
訓練参加への呼びかけの徹底
もっと早くに訓練をして欲しかった
大震災当日、防災放送に開墾場の避難指示がなく不安があった